(3)	約は、 1、1 0 国	第 プレト			を進めてプレ			年 3 月 2 はいつ 学教員				-	初等	F D	する中	た。それ	- 1	教 基準の	1 9 年		う みであ	る教育	学 近年
東京大学大学院	100人が受講し、過、国内最多となる年間	ている。本プログラムプレFDとして開講され	ァカルティプログラムが東京大学フューチャーフ	では、2013年度から 所属先である東京大学	を進めている。	学院での研究テーマとし問題意識から筆者は、大	るべきなのか。そうした	はいつどのように養われ学教員として必要な能力	ないのはなぜなのか。大	関が十分に整備されてい教育ではそれに当たる制	か存在する一方で、高等	免許状や教職課程の制度	初等中等教育には教員る検討がなされている。	FDの導入と拡大に関す	する中で、各大学でプレ	た。それから4年が経過ればアダラス製作である。	是共が努力義务とされレFDの実施または情報	 	19年8月の大学院設置	性が高まっている。20	みであるプレFDの重要	る教育能力開発の取り組	年、大学院生に対す
瀬崎颯斗	前述の通り、大学院設を振り返る	プレFDの努力義務化を探りたい。	プレFDの新たな可能性知見から、日本における	学への訪問調査から得た	改めて振り返ると共に、の努力義務化」の内容を	本稿では、「プレFD	(CTL) スタッフに話を	ACenter for Teach ing and Learning	生のTA研修やFDを担	訪問調査を行い、大学院スタンフォード大学への	は2023年1月に米国	の実態を探るべく、筆者	究が蓄債されている。 FP)における実践と研	culty Program: PF	paring Future Fa	準備プログラム(Pre)を表する。	(TA) 制度や大学教員 チング・アシスタント	るアメリカでは、ティー	てしばしば取り上げられ	プレFDのモデルとし	る。	の修了生を輩出してい	去10年間で延べ954人
とならない場合であって 修了後に直ちに大学教員 歴が学問を修みそ者に	生を対象とした背景としたを対象とした背景とし	では、博士後期課程の学べき姿(審議まとめ)」	据えた大学院教育のあるている「2040年を見	における参照資料とされ		いるプレFDの対象は、		(631)			は、本条文で想定されて	ここで重要となるの	2019)。 められた (文部科学省	うための機会」として定	るために必要な能力を培	らが有する学識を教授す	明果呈の学主が多了爰自 て、プレFDは「博士後	的には第42条の2におい	法的根拠となった。具体	るプレFDの普及を促す	化」は、各大学院におけ	「プレFDの努力義務	置基準の一部改正による
項では、プレFDの具体さらに本改正の留意事	高等教育機関以外に勤め	業・官公庁・NPO等のあり、修了後に民間企	後期課程の学生全体」での対象となるのは「博士	かる。そして、プレFD を定されていることがわ	留まらない幅広い機会が教員としての教育活動に	み」が指す内容は、大学	米国スタン	そ国く	フレ F D の	°	る学識を教授する見込	ける「修了後自らが有す	ここから、本条文におている。	19)との見解が示され	(中央教育審議会 20		等の取組(プレFD)を けるための授業科目開設	とした教育能力を身に付	士課程の学生全体を対象	いことから、各大学は博	機会が生じる見込みが高	や技術を他者へ教授する	も、将来的に自らの知識
たせていなかったことをり、その機能が十分に果り、その機能が十分に果	なる女員の甫力して習れまでのTA制度が「単れまでのTA制度が「単	る一との指摘が反映され一つの取組事例となり得	画等を経験させることもく、授業や教育内容の企	なる教員の補助ではなけるものでは、単	での「教育能力を身に付教育審議会(2019)	れらの改正は、先の中央		_	-	_		と共に、彼らに対する研	させることが可能となる学生に授業の一部を分担	正においても、TA等の	4年度大学設置基準の改	については、	科学省 2019)。 Γ 提供が明示された(文部	践的な教育経験の機会の	Λ.	能力向上のために設計さ	業の開催に加えて、教育		的な内容として、指導法
しており、その中で大学 1万人の大学院生が在籍	(16))人の芝耶E・ かフォード大学には、約まず、前提としてスタ	くとととする。研修について紹介してい	を基に、大学院生TAの Lスタッフがら得た知見	を例に、訪問調査でCTは、スタンフォード大学	発はどのように行われて	は大学院生の教育能力開	ファート大学への討じ	て色へう	多面的な効果と同		それでは、アメリカで	TA研修	スタンフォード大学のかれかる。	みが求められていること	TA制度に近しい取り組	してもアメリカにおける	が想定され、その内容とに留まらない幅広い対象	は、大学教員志望の学生	FDの努力義務化」で	以上のように、「プレ	み込まれたのである。	Ι'	受け、TA制度の拡充が

訪問調査

環として、TAオリエン

は、①研究、②メンタリ ングに関する能力開発

は、TAの能力向上の スタンフォード大学で 取り組みに従事すること は、大学院生のティーチ ンフォード大学CTLで ながるのだろうか。スタ は、どのような効果につ

ど、学部生の授業の一部

を担当する機会がしばし

れる討論クラスを担うな

されている。

教育活動は多面的な効

力感の向上、QOLの向 動は、大学院生の自己効

TA制度のように、より る。今後は、アメリカの 層の充実が図られてい 度の拡張を含めたより一

多くの大学院生に対して

Rev. 52, 63-76.

(2016) Econ. Ed.

Bettinger et al.

· Connolly et al

(2016) LSFSS Bri

天践的な教育機会を提供

ための機会が幅広く確保 する能力や自信を高める

ング:教育能力開発の活

③成長とウェルビーイ

よる講義とは別に実施さ

助に留まらない。教員に の職務のような授業の補

で、大学院生の教育に関

al. 2008)

の学生に限らない幅広い 政策的には大学教員志望 生に対するプレFDは、

引き続き国内外の実践と

に期待を寄せると共に、

对象が想定され、 TA制

模索していきたい。

〈参考文献〉

レFDの新たな可能性を

研究を注視しながら、プ

2022: Walker et

ができる (Tocco

ての活動やその研修の

このように、 TAとし

学部教育での教育活動に

ションなど、随時申し込

ロ・ティーチングのセッ

シップ、協働、

、独立した

多面的な効果を見据え

力向上に留まらない多面

日本の各大学で教育能

的な効果を見据えたプレ

みが可能な研修も用意さ

コミュニケーション力と 仕事において重要となる

たブレFDを

以上のように、大学院

FDが発展していくこと

メタ認知能力を築くこと

院生の多くがTAとして

携わる。これまで多くの

研究で語られてきたよう

れている。

Aの仕事は、 日本のTA

に、アメリカにおけるT

A活動や教育能力開発の 果を有する 大学院生がこうしたT 2021)° ongtrakul et al. et al. 2016: Mahov び付く (Connolly 上、帰属意識の向上に結

育に従事する大学院生 ④修了とキャリア:教 すると共に、教育能力向

フムをTA研修と連携さ 上を図るプレFDプログ

せて展開していくことが

·Feldon et al.

ef Series, No. 9.

1037 - 1039.

(2011) Sci. 333,

Mahovongtrakul

•Tocco (2022), Ch. 13 in Explor my 40 (2), 1-61.

·Walker et al. ing How We Teach. (2008) The Forma

開催されているが、今年

からは自分のペースで学

い研究能力を有する

(Feldon et al.

る課題の解決にも寄与し さに大学院生が抱えてい 念する大学院生よりも高

力やキャリアなど、今ま 伝えられている。研究能 院生に対しても繰り返し ことは、 TAを担う大学 々な効果を有するという 能力向上に留まらない様

する活動であると捉え、

べき姿(審議まとめ)」

·文部科学省(201

据えた大学院教育のある

人学院生や大学執行部に

Dを研究やキャリア等へ

の様々なインパクトを有

れらの知見を踏まえて各

へ学の担当者が、 プレF

tion of Scholars.

中央教育審議会(20

- 12040年を見

上のみに留まらない。こ

のワークショップとして 研修は、半日間の対面で

らし、教育に従事する大

究能力に良い影響をもた

①研究:教育活動は研

学院生は、研究のみに専

相互に実施するマイク

性:教育活動はメンター

FDを展開する上でも有

促進されるだろう。 学でのプレFDの普及が を発信することで、自大 対してその多面的な効果

は、日本の各大学でプレ

得るという効果の魅せ方

則及び大学院設置基準の

「学校教育法施行規

部を改正する省令の施

②メンタリングと協働

ンドの研修も整備されて 習を進められるオンデマ

いる。その他にも、5分

2011)°

で各クォーター初めに年

として捉えられている。

テーションと呼ばれる研

ウェルビーイング、④修

et al. 2016)° が高い (Bettinger

やプレFDに秘められて

に、大学院生の教育経験

いる可能性は、単に大学

間が短く、高等教育機関

は、学位取得にかかる期

重要となる。

における職を得る可能性

積から推察されるよう

また、海外での研究蓄

et al. (2021) To

Improve the Acade

ングと協働性、③成長と

了とキャリアの4つの次

元にも好影響があるもの

時代の教育経験が、教育

教員としての教育能力向

このように、大学院生

修が、CTLの運営の下

4回行われている。 この